



熊日緑のリボン賞を受賞した江藤さん

「緑のリボン賞」を受賞

高齢者施設などでハーモニカ演奏

社会奉仕や環境美化などの活動に長年取り組んでいる人に贈られる「熊日緑のリボン賞」を、1月12日、東無田の江藤秀樹さんが受賞しました。

「みなさんに歌ってもらって私がその手伝いでハーモニカを吹くだけ」と江藤さん。100曲を超えるレパートリーの中から高齢者が親しみやすい曲を選んで、1回の訪問で17〜18曲演奏。

江藤さんは、県内の高齢者施設などを訪問し、ハーモニカの演奏で入所者に楽しんでもらう活動を18年前から行っており、昨年の8月で通算300回を迎えられました。

『また来てくださいね』というお礼の言葉に、これからの演奏を続けていきたいと笑顔で話していました。

地域の森林を元気に

津森小学校で木工教室

上益城地域木材需要拡大推進協議会が主催し、「くまもの木を学ぶ授業」と題した学習会と木工教室が、2月5日、津森小学校(北森光代校長)で行われました。

5年生を対象とした木工教室では、児童12人が参加。派遣された講師のもと「地域の木材を使うことが森林を元気にすること」を学習した児童たちは、用意された木材を使ってプランター作りに挑戦しました。慣れないのこぎりや金づちを片手に一生懸命作品を作り上げました。

山田悠太君(下陳)は「木を切ってサイコロや車を作ったことがある。図工が得意で大好きなので楽しいです」と笑顔で話してくれました。



慣れない道具を使い、真剣に工作に挑戦



食事と会話を楽しむ参加者

「食」でつながりを作る

高齢者と子どものふれあい食事会

高齢者と子どもが一緒に料理や食事をし、ふれあうことをコンセプトとした、ふれあい食事会が1月24日、町公民館で行われました。

これは、熊本県栄養士会地域活動事業部が毎年行っているもので、益城町での開催は2回目。園児や祖母、民生委員など39人が参加し、栄養士の指導のもと、和気あいあいと料理しました。

管理栄養士の黒木元子さんは「現代では祖父母といろんな経験をする機会が減ってきている。郷土料理や食育の話などで、つながりを作るきっかけになれば」と話しました。

いきなりだんご汁など郷土料理を前に、楽しそうに会話する祖母と孫の姿が見られました。